

歴史的資産活用推進事業に関わる意見交換会 実施報告書

意見交換会の概要

●目的

(仮称)札幌市歴史的資産保存活用推進方針の策定にあたり、現状の価値や課題についての意見や課題解決のためのアイデアなどを募り、方針策定へ活かす。

●参加者

- (1)歴史的資産の所有者・活用者 8名(飲食店、サービス業、法人、個人等)
- (2)北海道文化遺産活用活性化実行委員会ヘリテージ・マネージャー／コーディネーター 11名

●日時

平成29年8月28日(月) 14:00～16:00 (所有者・活用者)
 18:30～20:30 (ヘリテージマネージャー／コーディネーター)

●内容

項目	概要
①本事業の説明	・背景、目的、委員、スケジュール説明 ・第1回検討委員会での意見等を共有
②調査分析結果の共有	・調査概要の説明 ・分析結果の説明
③歴史的資産の価値・魅力について	(グループ分け) ・自己紹介～現状の共有 ・歴史的資産の価値・魅力について(なぜ維持しているのか)
④課題の抽出	・現状困っていること、課題と感じていることなどを抽出(ポストイット使用) ・課題の分類、整理(模造紙使用) ・グループで整理した課題を発表、共有
⑤保存・継承へのアイデア、希望について	・グループ毎に課題を解決するアイデアを検討 ・グループで出されたアイデアを発表、共有
⑥意見交換	・これまでの議論を深堀
⑧まとめとクロージング	・全体を通じた所感 ・今後の意見の活用について説明



ワークショップ時ホワイトボードの様子

自己の所有する歴史的建造物は残していく価値や魅力があると思いますか	回答数
①とてもそう思う	7
②ややそう思う	3
③あまり思わない	1
④全く思わない	0
⑤その他	0
合計	11

上記で答えた理由であてはまるものに1つ○をつけてください	回答数
①古く希少価値がある	1
②歴史を感じさせるデザインである	4
③現代の建築にはない雰囲気がある	3
④地域で親しまれている	3
④あまり特徴がない	0
⑤ただ古いだけである	0
⑥古く傷んでいる	0
⑦古く暗い感じがする	0
⑦その他	0
合計	11

札幌市内の歴史的建造物を次の世代へ継承していくべきだと思いますか	回答数
①とてもそう思う	10
②ややそう思う	1
③あまり思わない	0
④全く思わない	0
⑤その他	0
合計	11

自己の所有する歴史的建造物を次の世代へ継承していけるとと思いますか	回答数
①とてもそう思う	3
②ややそう思う	4
③あまり思わない	4
④全く思わない	0
⑤その他	0
合計	11

上記で答えた理由であてはまるものに2つまで○をつけてください	回答数
①自分が価値を理解し保存に努めている	5
②継承者(相続人)が価値を理解している	2
③第三者による保存活用が見込まれている(既にしている)	0
④地域のシンボルにしたい	4
⑤継承者(相続人など)がいない	0
⑥相続人はいるが価値を理解していない	1
⑦住む(使う)人がいない	0
⑧税金がかかる	0
⑨修繕にお金がかかる	3
⑩建て替えて新しくしたい	1
⑪その他	2
合計	18

札幌市の歴史的資産(歴史的に価値があるもの)を、次の世代に繋げるための保存や活用に関し、現状や課題、手法等ご自由にお書きください。

回答・コメント

- 専門的な知識はないが歴史的資産について、日頃から好感や関心を持っていたり、無くなったら寂しいと感じる市民の想いをどうみとっていかも重要。
- 個人所有の建物の保存・活用についての一番の課題は、費用の問題だと感じる。保存活用の事業化、費用問題の解決方法を提案するプロの存在と、その仕組みが必要。また、その仕組みのインターネットによる双方向の情報発信・交流の場づくりが必要。
- 建物自体の保存が難しい場合、ありし日の姿を動画撮影保存したり、VRを使いバーチャルに建物を見ることができると地図と連携したMAPを整備するなど行政でできないか。
- 札幌創成東地区にも、たくさんの歴史的建造物が遺っている。親族の中で意見が分かれるので、保存も活用も難しい状況という所有者もいる。
- 保存、活用の仕方もいろいろで、資金や手間が少ない方法もあるはずであり、様々な支援や仕組みを知っていただく機会や仕組み、支援、活動の連動も必要。
- 歴史的資源が語る、まちのストーリーや地域の歴史など、丁寧に持ち主に話を伺わなくてはなかなか知りえない情報も、建物と同じく遺していく価値がある。
- まちあるきイベントやワークショップを通し、価値を再確認したり、新たなアイデアを持つ人との交流も必要。
- 歴史的資産、建物の保存については経年に伴う維持、保全に多分の費用を要する事から、所有者が保存に向けて躊躇する傾向が強い。
- 陳腐化した、機能、構造に対してどの程度の費用支出が妥当であるか、又は解体してしまい新たな計画を行う方が効率的か、費用対効果が所有者の重大な関心事。
- 歴史的資産、建物については築50年以上で現行の構造基準に適合しないため、維持保全の工費も工事範囲も多大になる傾向。建築基準法の適用除外等の法令整備が今後の課題。
- 歴史的資産所有者の金銭的・労的負担を憂慮している。
- 保存・利用に対する制限・制約がどの程度所有者の負担であるか知る必要がある。
- 時代にそぐわない建材の保存修理技能をどう継承していくか悩む。
- 将来歴史資産に成る物件の調査をするべき。

	所有者	ヘリテージマネージャー／コーディネーター
歴史的示唆の価値・魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・町全体の景観をつくる点が魅力。 ・ストーリーやテーマ自体が魅力。歴史を語るもの。 ・ストーリーや歴史が魅力的。建物に文化度を感じてもらえる。 ・まちの景観となることで誇りがもてる。 ・商用で活用すると、建物自体への関心からお客様の幅が広がる。 ・屋根や窓など特徴的、レンガなど素材が本物。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の素材、デザインが素敵である。 ・当時の生活を想像できる、住んでいた人の思いや愛情を感じられる。 ・今にない工夫や、職人の技が生きている。誇りをもった仕事を感じる。 ・当時の暮らしへの想像力をかきたてるもの、学べるものである。 ・技のすごさや、こだわり、その土地の歴史を伝えるものである。 ・人の手を感じるもの、ほっとするもの、故郷としてのまちなみのひとつ、古き良きもの、住民の拠り所、アイデンティティである。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者と活用者が異なる場合の調整が難しい。 ・安全性とコスト(電気関係の工事)の兼ね合いが難しい。 ・技術の伝承不足、職人不在。 ・継承したくても相続税で手放すしかない。 ・残すためには費用がかかるという周りの認識が足りない。 ・周囲の認識や理解が足りない。 ・維持費用、設備投資費用など資金面の難しさがある。 ・用途転用時などの制度が硬い。市の条件が厳しい。 ・マッチングの仕組みやネットワークがない。 ・情報公開が足りない。アドバイザーがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンス費用など、所有者の負担が大きいし、職人も儲からない。 ・実際に使うのが不便なため、ただ残してほしい、とは言えない。 ・所有者の事情を考えると建築基準法の基準が厳しい。 ・所有者の気持ちと周囲の希望が乖離しているケースがある。 ・守ってくれる人がいない。所有者は「誰が」維持するのか、という問題が出てしまうため、オープンにできない。 ・維持するための資金不足。設備投資費用の補助などが足りない。 ・情報がない。周囲の人は気付かない。所有者は相談場所や制度、マッチング等どうすれば良いかわからない。 ・活用者は、活用できる建造物の情報を得られない。 ・用途の転用に対し、市の条例が厳しい。
解決のためのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドマップの置き場所を増やす。(有料／無料パンフレット) ・ボランティアガイドツアー／有料ガイドツアー。 ・稼ぐところと使うところで資金を回す仕組み。 ・残るためにお金がかかることを理解してもらおう。 ・有料イベント等の実施。 ・情報提供や情報発信を行う。 ・歴史的建造物と企業など、民間の力の結びつけ、マッチングをしてほしい。その際、アドバイザーがほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングによる資金集め。 ・代替の法律条例が制定されれば。用途変更や耐震について知恵と お金のサポートがあれば。 ・建物と一緒に案内ができる仕組みづくりを。体験つき特典、限定宿泊など。 ・価値が理解できる人が活用でき、人がつながる仕組みづくりを。引き継ぐ人も価値の理解を。 ・所有者にも誇りをもってもらおう。利益を生むことも重要であるということを伝える。 ・学生さんなど、ボランティアに手伝ってもらおう。 ・駐在的な市民・相談のしやすい地域密着型の窓口の設置。 ・文化財バンクの設立。収益のあるところからないところへ回せるようなプロを使った仕組みづくり。 ・マッチングの時の分かりやすい価格設定。人や相手によって価格変動が起こらないように。 ・専門家と一般の方を結ぶコミュニケーターの養成。(専門的すぎる話は受け入れられない。) ・市民対話の場やネットワーク(市民、所有者、活用者)を広げる。 ・文化財体験会を実施する。小中学生がもっと文化財に触れるきっかけをつくる。 ・ブラタモリのような街歩きコースを考える。市内に説明看板をもっと設置してもいいのでは。 ・行政・所有者・活用者が地域の成功事例をもっと学ぶ。